

## 出雲市水道事業ビジョンについて

6月議会において素案を報告した出雲市水道事業ビジョンについて、市民からのパブリックコメント意見等を踏まえ、最終版を策定しましたので下記のとおり報告します。

### 記

#### 1. パブリックコメントについて

##### ①実施期間

平成30年(2018)7月2日から

平成30年(2018)7月31日まで【30日間】

##### ②実施結果

意見提出者数	2人
意見数	39件

※パブリックコメント意見と市の考え方については、出雲市ホームページに掲載中です。なお、意見を受けて修正した内容は別紙のとおりです。

#### 2. 出雲市水道事業推進懇話会からの意見について

意見提出者数	10人
意見数	23件

※意見を受けて修正した内容は別紙のとおりです。

#### 3. 出雲市水道事業ビジョン最終版

別添のとおり

出雲市水道事業ビジョン(素案)への意見(パブリックコメント)一覧【修正内容】

項目	小項目	意見内容	市の考え方	
1	1.水道事業ビジョン策定の趣旨	1.3.位置づけ	<p>【計画期間について】 (1)計画期間については、全体構想(水道事業ビジョン)ではH30～H39となっており、全体計画(基本計画)ではH30～H49となっている。 どのような計画でも全体構想が最初にあつて、構想を具体化したものとして施策等を盛り込んだ全体計画(基本計画)が策定されるのが通常ではないか。 全体構想と全体計画(基本計画)の計画期間について再検討する必要がある。</p>	<p>全体計画(基本計画)の計画期間を「H30(2018)～H39(2027)」に修正します。</p>
2	2.概要と沿革	2.3.水道事業の概要	<p>【計画給水人口と現在給水人口について】 平成29年3月31日現在の計画給水人口は138,600人で現在給水人口は143,957人となっており、普及率は99.0%と記載されている。 通常、普及率は計画給水人口に対する現在給水人口の比率ではないのか。 また、計画給水人口より現在給水人口が上回る実態があるならば計画給水人口の修正が必要ではないか。</p>	<p>表の欄外に、「普及率は、給水区域内人口に対する現在給水人口の比率」と記載します。  (現在、厚生労働省に対し、現在の給水人口を踏まえた計画給水人口への変更申請をしています。)</p>
3	3.現状の分析と課題	3.4.水道施設の老朽化対策	<p>以下の文章を末尾に追加 「水道施設への管理道は既設の市道・県道・国道の他、林道・アクセス道路等を利用するが、未整備も多い。関係機関との連携の上、整備を図る。」 (理由)狭隘な道路沿いにある施設へのアクセス状況の改善のため。</p>	<p>構造物・設備の説明の中に、以下のとおり追記します。  また、更新にあたっては、管理道の状況も確認し、必要に応じて関係機関と協議のうえ、整備を検討する必要があります。</p>
4	6.基本方針の推進に向けた重点的な実現方策	6.2.「強靱」…災害に強い施設をつくり、しなやかな水道を実現します	<p>【管路の耐震対策について】 「主要な管路の耐震対策として、管路の二条化を計画的に進める」と記されているが、二条化の意味、効果、区間・地域について分かりやすく記述する必要がある。 「南側幹線バックアップ」と記されているが、バックアップ部分の幹線は通常は使用せず、緊急時に代替として使用するのか分かりにくい。「南側幹線」と「バックアップ幹線」の位置を分かりやすく記述・図示すべきである。</p>	<p>以下のとおり修正し、図中の表現も改めます。  既設幹線管路の北側に新たな管路を整備し二条化することで、災害等による漏水事故に対しバックアップ機能の強化を図ります。</p>
5	6.基本方針の推進に向けた重点的な実現方策	6.2.「強靱」…災害に強い施設をつくり、しなやかな水道を実現します	<p>【老朽化した施設の計画的更新について】 電気・機械設備、計装設備、土木構造物について、法定耐用年数に対して使用(更新基準)年数が概数ではなく、それぞれ24～25年、21年、73年と記されているが、その根拠について記述する必要がある。</p>	<p>表の欄外に、構造物・設備の使用(更新基準)年数は、実使用年数に基づく更新基準の設定例(厚生労働省)であることを追記します。</p>
6	6.基本方針の推進に向けた重点的な実現方策	6.2.「強靱」…災害に強い施設をつくり、しなやかな水道を実現します	<p>【災害対応力強化に向けた施設整備について】 「災害時の漏水による配水量の増大を勘案した施設の整備を行う」と記されているが、配水量の増大を勘案した施設の整備とはどのような内容なのか分かりやすく記述する必要がある。</p>	<p>以下のとおり修正します。  災害時の漏水による配水量の増大を勘案した貯水施設等の整備を行います。</p>
7	6.基本方針の推進に向けた重点的な実現方策	6.3.「持続」…健全な供給基盤の確保と安定的な事業運営に努めます	<p>【住民との連携促進について】 「市内の小中学生を対象に浄水場の見学を受け入れています。こうした活動を通じて水道事業に対する住民の理解を深めます」と記されているが、一般市民にも浄水場等の水道施設を公開し水道事業に対する市民の理解・認識を深める必要があり、その旨を本計画に記述すべきである。</p>	<p>以下のとおり修正します。  水道事業に対する理解を深め水道を身近に感じていただくため、住民の皆さまを対象とした浄水場の見学の受入れを引き続き行います。特に、小学校からは定期的に見学を受け入れます。</p>
8	資料	用語説明	<p>【管路の更新率について】 「年度毎の管路更新率が1%未満ですべての管路を更新するには100年以上を要する」と記されている。(p.25)管路更新率及び年度毎管路更新率について分かりやすく記述する必要がある。更新対象の管路延長は管路の区分ごとに毎年度調査することになるのか？</p>	<p>年度毎の管路更新率は、管路総延長に対する当該年度に更新した管路延長の比率であることを用語説明に加えます。  (管路更新延長は年度毎に集計を行っています。)</p>
9	資料	用語説明	<p>【耐震診断について】 「構造物の耐震性能二次診断では、設計図書、地盤条件等をもとにレベル1及びレベル2地震動に対して所要の耐震性能を有しているか否かを診断する」と記されているが、レベル1及びレベル2地震動とはどの程度の地震(震度)なのか分かりやすく記述する必要がある。</p>	<p>以下のとおり修正します。  設計図書、地盤条件等をもとに、レベル1(震度5強)及びレベル2(震度6強)地震動に対して所要の耐震性能を有しているか否かを診断します。</p>

出雲市水道事業ビジョン(素案)に対する意見(7月23日 出雲市水道事業推進懇話会)一覧【修正内容】

	項目	小項目	意見内容	ビジョンへの反映
1	2.概要と沿革	2.2.水道事業の沿革	9ページ以降の各地区の沿革があまりにも細かく書いてあるが、これをどうしたいのか。現状と課題とのつながりが分からないので、書き方に工夫が必要でないか。	「各地区の水道事業の沿革」は資料編へ移します。
2	3.現状の分析と課題	3.1.安全で安定した水の確保	21ページの地域別の人口増減率の図に町名・地名を記載した方が良い。	図に旧市町境界線を加えます。
3	3.現状の分析と課題 6.基本方針の推進に向けた重点的な実現方策	全般	現状の分析と課題について、それぞれ明確な課題が並んでいるが、それに対してどうという答えがあるのか。42ページ以降の基本方針にその答えが書いてあるが、課題と答えのつながりがよく分からない。課題を出してあるのなら、その答えを書くなど、項目や記載方法を再確認して欲しい。	課題と方策の対応を示す図を追加します。
4	3.現状の分析と課題 6.基本方針の推進に向けた重点的な実現方策	全般	課題と実現方策の記載がリンクしていないので、見やすい内容で作られた方が良いと思う。	
5	3.現状の分析と課題 6.基本方針の推進に向けた重点的な実現方策	全般	課題とビジョンが一致しているかどうか、分かりにくい。市民に対しての読みやすさという点で一貫性が欲しいと思う。	
6	7.水道事業ビジョンの推進	7.1.投資・財政計(経営戦略)	57ページの収支見通しのグラフで平成29年度・30年度が突出している(簡水統合・向山配水池再構築事業)が、グラフだけ見ると理由が分からない。56ページを読めば分かるが、グラフの下あたりに説明があっても良いのかなと思う。	グラフに注釈を加えます。